

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

2022年度 事業報告書



Diversity & Inclusion

“いのちのつながり” に貢献する医療、研究のために



日本医科大学
NIPPON MEDICAL SCHOOL



日本獣医生命科学大学
NIPPON VETERINARY AND LIFE SCIENCE UNIVERSITY



アンファア

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
2022年度 事業報告書

目次	1
連携機関ご挨拶	3
代表機関	
日本医科大学 学長 弦間 昭彦	
共同実施機関	
日本獣医生命科学大学 学長 鈴木 浩悦	
アンファー株式会社 代表取締役 叶屋 宏一	
1章 事業概要	4
1 目標・行動計画および取り組みの概要	5
2 実施体制	6
3 各機関の数値目標	7
4 2022年度事業計画	7
2章 活動報告	9
1 ダイバーシティ研究環境整備のための取り組み	10
1-1 研究支援員配置制度	10
1-2 女性研究者を代表とする共同研究への研究費の補助	12
1-3 病児・病後児および休日勤務時等の保育支援制度	14
1-4 時間短縮勤務制度利用者のキャリア継続支援	14
1-5 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト	15
1-6 研究人材育成セミナー	17
1-7 イクボスの推進	18
1-8 ダイバーシティ推進講演会の開催	20
2 女性研究者の研究力向上とリーダー育成のための取り組み	21
2-1 産学横断型キャリア相談窓口	21
2-2 産学横断型メンター制度	21
2-3 留学支援	22
2-4 英文校閲費用助成制度	23
2-5 外部資金獲得に向けた支援	23

2-6	リーダーシップ&マネジメント力養成セミナー	24
2-7	英語プレゼンテーション講座(個別英語レッスン)	25
2-8	研究力強化月間セミナー	26
3	女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取り組み	27
3-1	教育担当の講師および准教授 任用制度の活用	27
3-2	学長による取り組み	27
4	情報発信と広報	28
4-1	One Healthウェブサイト	28
4-2	ニュースレターの発行	28
3章	資料	29
1	One Health 実行委員会規程・委員名簿・開催日と議題	30
2	2022年度 事業取組実施表	33

ご挨拶

形成されつつある強い基盤を 多様性に富んだ人材のさらなる活躍に活かす

代表機関 総括責任者

学校法人日本医科大学 日本医科大学 学長

弦間 昭彦

2019年度に採択を受けた文部科学省科学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)は、基礎づくりのフェーズを経て、4年目を迎えました。ライフイベントと研究の両立、女性の研究力向上とリーダー育成に向けた取り組み、女性の上位職登用という3つの目標達成に向け、組織としての認識が進み文化として定着しつつあり、研究環境実現は着実に前進していると考えます。

2022年度は、事業を進める中で明らかになった問題点に対応しながら、一つ一つの取り組みがブラッシュアップされています。研究支援員配置制度や共同研究の支援を受け実績を積んだ研究者のモチベーションが高まり、その結果として多数の女性上位職員やその候補者が生まれました。さらにその姿が若手研究者に良い影響を及ぼし、事業実現に重要な研究者側の強い基盤を形成しつつあります。そして、「牽引型」で培ったこの4年間の取り組みが、2022年度の「女性リーダー育成型」の採択に繋がり、それが、私たちの挑戦を一層勢いづける状況となっています。

これからの2年間はより高い水準の目標達成に向け、今行っている連携や取り組みを着実に継続します。連携機関、協力機関をはじめとする皆様におかれましては、一層のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



女性の活躍を後押しすることは、到達目標への近道

共同実施機関 総括責任者

学校法人日本医科大学 日本獣医生命科学大学 学長

鈴木 浩悦

昨年10月から学長を拝命し、大学を取り巻く状況の変化に対応するため、大学の組織と運営の改善を進めています。ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(索引型)は、清水前学長や関係者のご尽力により、これまでの取組が評価されており、その成果として、女性教員の研究環境が向上し、研究のレベルもあがってきています。この状況は、新たに採択されたダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)と連鎖し、好循環を作り出し、女性教員管理職の登用に繋がることが期待されます。

本学の獣医保健看護学科では女子学生が大半を占め、他の学科でも女子学生は増加傾向にあります。女性教員の活躍は、これから研究・教育職に進もうとする女子学生の身近なロールモデルとなるはずです。さらに、本学は「学是敬讓相和」の下に「愛と科学の聖業を培う」という到達目標を掲げています。これを実現するために、女性教員の採用を増やし、管理職に抜擢することで、女性の感性を十分に取り入れた大学作りを進めたいと考えています。本学が得意とする動物福祉の分野では女性研究者の力が大きく、ワンヘルス・ワンウェルフェアを実現しようとする医科大学法人において、女性教員の果たす役割は大きくなっていくと思います。女性の活躍が法人および大学の将来に貢献することを期待し、その後押しを進めて参ります。



アカデミアとの連携事業で 予防医療が当たり前な世の中を目指して

共同実施機関 総括責任者

アンファー株式会社 代表取締役

叶屋 宏一

アンファー株式会社は自分をより「美しく」、「健やかに」することを通じ、人生をより「愉しく」したい人を増やすことを企業理念としております。これまで当社では、数多くの医師や研究者の方々と連携して、基礎から臨床研究まで一貫通で行ない、裏付けされた科学的根拠に基づき、様々な医療サービス、医薬品などのプロダクトを展開し、一人一人が目指す状態に近づくサポートをすることを目指しています。当社は半数以上が20代、30代の社員のため、出産や育児休業に入る社員が多いのが現状で、女性に限らず、男性も育児休業取得の実績があります。さらに、ライフイベントに合わせて、女性、男性、役職問わず、在宅勤務や時短勤務などフレキシブルに働ける環境づくりを心掛け、当社社員に留まらず、社員の家族も含め、仕事と家庭の両立が実現できるよう配慮しております。また若手、女性など多種多様なキャリア形成を促進するプロジェクトを通じ、組織の意識の変革を起こすことにも力を入れております。本事業で産学連携することにより、当社の取り組みが少しでも大学における働き方やキャリア形成の変革にお役立てできることを期待いたします。





1章 事業概要

1章 事業概要

1 目標・行動計画および取り組みの概要

代表機関	学校法人日本医科大学 日本医科大学
総括責任者名	学長 弦間 昭彦
共同実施機関名	学校法人日本医科大学 日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社
実施予定期間	2019年度～2024年度

目標・行動計画の設定

【目標】

1. 女性研究者の研究力の向上・産学連携の促進
2. 女性研究者の上位職への登用促進
3. 社会全体としてのダイバーシティ環境の実現

生命科学領域における基礎研究を推進し、癌や生活習慣病をはじめとした加齢関連疾患の病因・病態の解明に貢献する。また、産学間で連携して、臨床応用を視野に入れたトランスレーショナルリサーチを推進し、新規治療・予防戦略を確立し、未来型医療を先導する。以て、女性研究者の研究力を伸ばし、上位職への登用を促進する。並行して、ひろく地域社会に「いのちのつながり」を学ぶ機会を提供することにより、地域との連携を強化し、ダイバーシティ意識を根付かせ、次世代の研究者を育成することを目標とする。

【行動計画】

1. 「いのちのつながり」を柱とした共同研究の推進と女性・若手研究者キャリア支援

女性・若手研究者の細やかな視点で「いのち」を捉え、病因・病態の解明や疾病の予防、健康寿命の延伸を主眼においた基礎研究や、産学連携研究を推進する。科学技術研究費補助金(科研費)を含む、外部資金の獲得を1.2倍に増加させ、独立した研究環境を構築できるよう支援する。

2. 上位職への登用促進に向けたキャリアアップ

本事業を通じ、学位を取得した若手研究者は7年以内に准教授・講師の職につき、更に実績を重ね学内外の教授職を目指すことを支援する。2019年度は、女性教授は約6.6%であったが、2024年度には13.2%を目標とする。准教授・講師についても2019年度10.4%から2024年度12.5%以上にすることを目標とする。

3. 地域との連携によるダイバーシティ研究環境の実現

「いのちのつながり」をテーマとした出張授業など、地域に向けたアウトリーチ活動を10回/年以上実施し、多様なヒト(成人、子ども、高齢者)や動物の共生が可能なダイバーシティ環境を構築する。活動を通じ、ダイバーシティに対する人々の関心を高め、適正なワーク・ライフ・バランスの実現や、研究者をとりまく家庭や職場のしあわせキャリアの向上と、「ダイバーシティ研究環境」の実現に繋げる。

4. グローバル人材の育成

海外からの研究者・留学生の人数を2019年度・13人から2024年度までに1.5倍以上に増加させる。外国人研究者を交えた定期的な勉強会を開催し、グローバル人材を育成する。

取り組みの概要

1. 「いのちのつながり」を柱とした研究の推進と女性・若手研究者キャリア支援

女性・若手研究者の視点で生命現象を捉え、病因・病態の解明や疾病予防、健康寿命の延伸を主眼においた研究を推進する。産学連携を支援し、研究成果の早期実用化を促す。リーダーシップ養成セミナーを共催し、学協会における理事・会長への就任、政府諮問機関等への参画を目指す人材を育成するとともに、上位職への登用を行う。

2. 「いのちのつながり」講座によるワーク・ライフ・バランス意識改革

種の多様性は生態系の安定に必須である。生命科学研究に取り組む女性・若手研究者が、一般社会に向けたアウトリーチ活動を通じて「いのちのつながり」がダイバーシティの具現化に必須であることを解説し、ワーク・ライフ・バランスの意識を高める。これらの取組を通じ、多様なヒトと動物、環境の多様な生命との共生を目指す、一歩進んだダイバーシティ環境の実現を目指す。

2 実施体制

日本医科大学と日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社による「One Health 実行委員会」を設置し、地域との連携強化、次世代研究者育成の加速を目指し、産学連携のダイバーシティ研究環境整備と女性上位職登用に向けて取り組みを実施する。「One Health 実行委員会」は、各連携機関の実施責任者を含む6名の委員と、学長、研究部長等によって構成される。「One Health実行委員会」は、学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センターと各共同実施機関とのネットワークを密にし、多様な人材のキャリア形成や現場のニーズに即した支援体制を構築する。

代表機関および共同実施機関内においては、各機関内に設置されているダイバーシティ推進委員会、研究推進課、および学校法人日本医科大学の知的財産推進センター、ICT推進センター、国際交流センターなどとの連携のもとに事業を推進する。



3 各機関の数値目標

本事業による女性・若手研究者の育成、ならびにダイバーシティ研究環境の構築に向けた支援の成果として、2024年度には各機関における女性研究者の在職比率を以下の通りとすることを目標とする。

事業目標	女性研究者採用比率	女性研究者在職比率	教授（管理職）比率
日本医科大学 （代表機関）	2019年度 35% 2024年度 35%	2019年度 26% 2024年度 30%	2019年度 7% 2024年度 13%
日本獣医生命科学大学 （共同実施機関）	2019年度 50% 2024年度 50%	2019年度 21% 2024年度 27%	2019年度 15% 2024年度 20%
アンファー株式会社 （共同実施機関）	2019年度 50% 2024年度 67%	2019年度 59% 2024年度 60%	2019年度 33% 2024年度 40%

4 2022 年度 事業計画

【事業の目的】

日本医科大学

生命科学領域における基礎研究を推進し、癌や生活習慣病をはじめとした加齢関連疾患の病因・病態の解明に貢献する。また、産学間で連携して、臨床応用を視野に入れたトランスレーショナルリサーチを推進し、新規治療・予防戦略を確立し、未来型医療を先導する。医学部教授の選考基準の見直しや教育担当講師の配置などの取り組みを継続し、女性研究者の高い離職率の原因分析準備を行い、女性研究者の研究力を伸ばし、上位職への登用を促進する。並行して、ひろく地域社会に「いのちのつながり」を学ぶ機会を提供することにより、地域との連携を強化し、ダイバーシティ意識を根付かせ、次世代の研究者を育成することを目的とする。

日本獣医生命科学大学

本学へ入学する学生の6割以上が女子であるが、本学に在籍する女性教員数は日本の農学系の数値を若干上回る程度であるため、研究力のある女性教員そのものの数を増加させることが重要である。女性教員の研究環境が整備されることで、女子学生もキャリアデザインを広げ、良好なキャリアパスをイメージでき、大学院への進学率向上につながる好循環が誕生する可能性がある。そこで本学では中長期計画に男女共同参画推進を掲げ、全学的なダイバーシティ研究環境の実現に向けて力を入れているが、さらに本事業を通じてOne Health実行委員会を共同で運営し、次世代の研究者を育成し、ダイバーシティ環境の一層の促進を図ることを目的とする。

アンファー株式会社

日本医科大学と日本獣医生命科学大学との共同研究を推進し、女性研究者が活躍できる環境を築くための課題解決に向けた事例や、具体的な方策と手段を共有するために、One Health実行委員会の下、セミナーを開催する等して連携を強化し、次世代を牽引する女性研究者の育成に貢献する。

【実施内容】

代表機関である日本医科大学と、共同実施機関である日本獣医生命科学大学とアンファー株式会社と協働して取り組む。

1 ダイバーシティ研究環境整備のための取り組み

1) 保育支援制度の整備	医・獣
2) 時間短縮勤務制度利用者のキャリア継続支援	医
3) 研究支援員配置制度の実施	医・獣
4) 女性研究者を代表とする共同研究費補助	医・獣・ア
5) 研究人材育成セミナーの開催	医・獣・ア
6) 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクトの実施	医・獣・ア
7) ダイバーシティ意識醸成のためのセミナー等の開催	医・獣・ア
8) 情報発信	医・獣・ア
9) 他機関との協力体制の構築	医・獣・ア
10) 女子学生向けキャリアパス支援の取り組み	獣
11) 情報発信	医・獣・ア


2 女性研究者の研究力向上のための取り組みとそれに通じたリーダー育成のための取り組み

1) 産学横断型キャリア相談室/メンター制度	医・獣・ア
2) 研究力向上に向けた留学支援の促進	医・獣
3) 外部研究費獲得に向けた支援	医・獣
4) 女性研究者の研究力強化に向けた支援	医・獣・ア
5) リーダーシップ養成セミナーの開催	医・獣・ア

3 女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取り組み

1) 講師(教育担当)および准教授(教育担当)の登用	医
2) 人事基準の検討	獣
3) 学長による学内重要会議でのプレゼンテーション	医
4) 学長と分野責任者による戦略会議	医
5) 女性女医職候補者のコンサルティング機会の企画	医
6) 管理職に対するセミナーの開催	医・獣・ア
8) グローバル人材の育成	獣

医…日本医科大学 獣…日本獣医生命科学大学 ア…アンファー株式会社



2 章 活動報告

2章 活動報告

1：ダイバーシティ研究環境整備のための取り組み

1-1：研究支援員配置制度

日本医科大学、日本獣医生命科学大学では妊娠・出産、育児、介護などのライフイベントにある女性研究者の研究活動の維持と促進を図るため、2019年度から研究支援員配置制度を導入した。1週間当たり最大20時間の支援を受けることができる。研究者は研究支援員から実験補助、データ解析など研究に必要な業務の支援を受けることができる。

【対象者】

日本医科大学、日本獣医生命科学大学に所属する常勤の女性研究者（特任、ポストドクター含む）で、以下①～④のいずれかに該当する方

- ① 妊娠：母子手帳取得後、産休前まで
- ② 育児：小学校6年生までの子を養育している方
- ③ 介護：要支援または要介護の認定を受けている家族の介護をしている方
- ④ その他、上記理由に準ずるライフイベントにより、十分な研究活動が出来ないと認められる方

※ライフイベントのある男性研究者も対象としている

【研究支援員の勤務時間等】

週に最大 20 時間まで。研究支援員の雇用は大学で行い、経費も全額負担する。

【2022年度 支援実績】

日本医科大学	8名
日本獣医生命科学大学	3名

2022年度に支援を受けた研究者の意見

日本医科大学

●本制度を利用して一番先に感じたことは、「自分が2人に増えたような快適さ」です。どうしても育児や臨床、研究との両立には、やりたいことや能力があったとしても、圧倒的な時間の足りなさがあります。その中には「他の人に指示のもとにおまかせできる業務」と「どうしても自分しかできない業務」があることを、以前よりも強く認識し、分けること

によりかなり効率的に進む部分があるということを実感いたしました。このような支援は特に育児介護などの一時的なかつ絶対的な時間の制約のある医師には非常にありがたく、役立つ制度であると感じました。

●臨床業務と研究業務の兼任により、自身の休暇を削って勤務している状況でしたが、心身ともにゆとりをもって双方の業務に従事できるようになりました。

た。また、研究支援員配置により、研究周辺業務（試薬の管理など）の客観的な把握ができるようになり、漏れが少なくなりました。

●基礎研究を行うにあたり、臨床系の研究医が個人で実験を進めることは時間的・物理的にも困難であり、研究の継続を余儀なくされることもある。研究支援員の雇用は多額の費用がかかるが、研究費の少ない若手や研究実績の少ない臨床系研究医にとっては高額の研究費を獲得することは困難である。本支援員制度はそのような研究者達の研究推進に多大な貢献ができる制度であると確信している。

●教室に配置される技術員等の場合には他の教室員の仕事との優先順位の問題が発生するため、研究者個人に配置されることで適時にサポートを得られる本制度は、ライフイベントを抱えて時間的制約のある研究者にとっては他に代えがたい大変有用な制度であると考えます。研究支援員の方は共に研究することで日々技術を向上させていきますので、複数年同じ支援員の方についていただくと、大変効率よく研究を進めることができるようになりますと考えます。また、ひとたびうまく支援員の存在ありきで研究が進むようになりますと、支援員配置助成が引き続き得られなくなった場合のダメージも大きいので、出口のイメージを持っておくことが必要であると考えます。

●昨年度は途中からの採用であったが、マウスや試薬の管理やマウスの解剖、FACSやリアルタイムPCRやトランスジェニックマウスの作成に対する委託先とのやり取り、およびデータ整理など、本当に多くの内容業務を行っていただき、非常に感謝している。このような制度を多くの研究者が使うことができるようなシステムがあるとより発展すると思われる。

●本制度は、ライフイベントを理由に研究（特に基礎研究）を躊躇している女性研究者にとって、大変有意義な制度と実感しました。

●研究支援員の方に補助いただくことで、様々な目標を達成することが出来ました。「研究」という業務の性格柄、1年単位で結果を出すこと（論文化など）は難しく。長期的に支援いただけるシステムの構築をご検討いただければ幸いです。

●本制度を実施、継続し、女性医師、研究者にとって良い環境を構築しようと努力している大学にいる

ことを大変恵まれていると感じております。残念に感じたことは、優秀な支援員さんが配置され継続したいと考えていても、年度末の契約更新時には次に採択されるかわからず、支援員さんの契約を解消しなくてはいけないことでした。女性医師でプロジェクトを立ち上げた場合、1年で結果を出し資金を得ることは難しく、可能であれば継続した支援があると、より研究成果の進展が期待できるのではないかと感じました。女性医師、研究者がこれまでのキャリアを断念しなくても良いように、ダイバーシティの観点から、若手に限らず中高年の女性医師にも継続したご支援を頂けると幸いです。

日本獣医生命科学大学

●ライフイベントとのバランスを保つために研究者として諦めかけていた目標に向かって、再び走り出すことが出来ました。本制度への意見といたしまして、支援員を配置していただく際の雇用については、派遣会社を介さない方法（支援員候補の方と大学との直接雇用など）の選択も出来れば幸いです。

●研究に関しての補助は助かりましたが、その他の業務が多岐にわたりがち業務量がもともと多すぎるため、実習や学生教育、雑務を補助してもらえる人材があると非常にありがたいです。

●臨床業務、学生への教育の量と質を出産前と同じに保つためには、研究だけでなく多岐にわたる業務へのサポートが必要だと考えます。臨床教員は臨床業務の負担が多く、授業・実習、卒業論文指導も非臨床系教員と同様にあるため、支援時間を増やしていただきたいです。

1-2：女性研究者を代表とする共同研究への研究費の補助

日本医科大学、日本獣医生命科学大学に所属する女性研究者が代表となる医学・生命科学領域の共同研究を公募し補助する制度で、共同研究にかかる研究費として1件につき100万円を補助する。

【申請資格者】

申請者（研究代表者）は、日本医科大学、日本獣医生命科学大学に所属する女性教員・研究者（助教以上）

【研究組織】

連携機関（日本医科大学・日本獣医生命科学大学・アンファー株式会社）のうち

2機関以上の共同研究者による共同研究

人数の制限はない

【補助金額】

1件100万円（研究代表者の他、代表者と同じ機関に所属する共同研究者のみ使用可）

【2022年度 支援実績】

日本医科大学 3件

日本獣医生命科学大学 4件

日本医科大学の共同研究

2022年度採択 3件				
研究代表者氏名	職名	所属	研究題目	共同研究者
若林 あや子	講師	微生物学・免疫学	抗生剤が促進する食品添加物ミョウバンによる腸管上皮細胞の炎症性細胞死の解析	日本医科大学2名 アンファー株式会社1名
堂本 裕加子	講師	病理診断科	アミロイドーシスの背景 心筋組織の検討 ～心筋のプロテオーム解析～	日本医科大学2名 アンファー株式会社 1 名
稲垣 恭子	講師 (教育担当)	糖尿病・内分泌代謝内科	原発性脂質異常症が及ぼす心理的ストレス及び発達への影響の検討	日本獣医生命科学大学1名

日本獣医生命科学大学の共同研究

2022年度採択 4件				
研究代表者氏名	職名	所属	研究題目	共同研究者
小竹 佐知子	教授	応用生命科学部 食品科学科 食品工学教室	高齢者喫食行動の特徴と食品フレーバーリリースへの影響	日本獣医生命科学大学3名 日本医科大学2名
藤原 亜紀	准教授	獣医学部 獣医学科 獣医放射線学研究室	犬のリンパ球形質細胞性鼻炎症例における鼻腔細菌叢の評価に基づいた特定細菌に対するリンパ球反応性の検討	日本獣医生命科学大学3名 日本医科大学 1 名
小野沢 栄里	助教	獣医学部 獣医保健看護学科 獣医保健看護学臨床部門	ネコ難治性膵外分泌腺がん細胞株を用いた薬剤耐性機構の調査と新規治療戦略の探索	日本獣医生命科学大学2名 日本医科大学 1 名
町田 雪乃	講師	獣医学部 獣医学科 獣医病理学研究室	イヌの肝細胞癌のオルガノイドバンクの構築および新規治療法の開発	日本獣医生命科学大学1名 日本医科大学 1 名

1-3：病児・病後児および休日勤務時等の保育支援制度

日本医科大学、日本獣医生命科学大学に所属する研究者に対し、研究活動と育児との両立を支援するため、業務上やむを得ない理由により、夜間・早朝保育、休日保育、病児・病後児保育を利用する際に、その利用料金の一部を補助する。

【支援対象者】

研究に従事する専任教員およびポストドクターで、小学校6年生までの子を養育している者

※男性研究者にあっては、配偶者が大学、大学共同利用機関、独立行政法人又は企業等で雇用されている研究に従事する者である場合に限る

【支援対象となる保育等】

研究者が業務上やむを得ない理由により、夜間・早朝保育、休日保育、病児・病後児保育が必要となり、保育施設又はベビーシッター会社および市区町村で行っているファミリー・サポート・センターのサービスを利用した場合に、本制度による支援対象とする。

【補助額】

支援対象となる保育等の利用に係る利用料金（登録料、交通費、キャンセル料等は除く）とし、子1人あたり上限額（年度）2万円までとする。

【2022年度利用実績】

日本医科大学 4名

日本獣医生命科学大学 0名

1-4：時間短縮勤務制度利用者のキャリア継続支援

日本医科大学における短時間勤務女性医師の任用制度※利用者への支援を実施している。この制度を利用する育児中の女性医師が、通常の就業形態への復帰など、自分の描くキャリア形成実現を支援する。

※女性医師の出産、育児からの復職を支援し、将来のキャリア形成及びその維持に寄与することを目的とした制度

【2022年度実績】

面談の実施

新規および既存制度利用者 10名

1-5：女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト

連携機関に所属する女性・若手研究者、ポストドクター、大学院生などが集結し、今後の医学・生命科学研究者のキャリア形成に関して話し合う機会を作り、参加者にとって今後のキャリア形成の一助となることを目的とする。

【対象者】

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社に所属する
女性研究者、男性研究者※、ポストドクター、大学院生

※男性研究者は40歳未満がのぞましいが限定はしない

【プロジェクトの内容】

- 1) 参加者を6人程度のグループに分け、グループごとに以下の課題のいずれかを研究する
研究の方法、形式、時間などは各グループの裁量とする
- 2) グループリーダーはレポートを提出し、レポートで評価を行う
- 3) 研究発表会を開催する
- 4) 参加の特典 本事業で実施する令和5年度の研究支援員配置制度※への応募に際し、ポイントを付与する。
グループリーダーにはさらに高く付与する。

※ 出産・育児・介護などライフイベントのある研究者に限る、大学院生は対象外 日本獣医生命科学大学はポストドクターも対象外。男女問わず参加者にはポイントが付加される。ただし、補助金の性格上、同列の場合には女性研究者が優先される。

【研究課題】

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 優れた研究人材の獲得 | 5 研究と臨床の両立 |
| 2 アカデミックポスト獲得方法 | 6 国際・国内共同研究の展開方法 |
| 3 研究の効率化と生産性の向上 | 7 トランスレーショナルリサーチの進め方 |
| 4 コロナ禍のキャリアアップの進め方 | |

【スケジュール】

オリエンテーション 2022年5月16日(月)
研究期間 2022年5月25日(水)～7月1日(金)
レポート提出日 2022年7月15日(金)
発表会開催日 2022年7月28日(木) 日本医科大学教育棟 講義室・オンライン

【参加者】

24名

男性 12名 女性 12名

日本医科大学 16名 日本獣医生命科学大学 5名 アンファー株式会社 3名

研究発表会

【日時】 2022年7月28日(木) 16:00～17:30

【会場】 日本医科大学教育棟講義室+オンライン開催

【参加者】 48名

【研究発表会】

Opening remarks 弦間 昭彦 日本医科大学 学長

グループ1 「トランスレーショナルリサーチの進め方」

グループ2 「研究と臨床の両立」

講評 清家 正博

日本医科大学呼吸器内科学 大学院教授

グループ3 「研究の効率化と生産性の向上」

グループ4 「コロナ禍のキャリアアップの進め方」

講評 清水 章

日本医科大学解体人体病理学 大学院教授

Closing remarks 土佐 眞美子 しあわせキャリア支援センター長

文部科学省科学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

2022年
7月28日[木]
16:00-17:30
日本医科大学
教育棟講義室
+
オンライン開催

参加無料
会場定員50名
事前申込制

「女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト」は、連携機関（日医大、日獣大、アンファーマ）に所属する女性・若手研究者、大学院生、ポスドクなどが集結し、今後の医学・生命科学研究者のキャリア形成に関して研究するプロジェクトです。第3回は24名が参加しています。

**第3回 女性・若手研究者
キャリアデザインプロジェクト
研究発表会**

プログラム
Opening remarks: 弦間 昭彦 日本医科大学 学長
発表 グループ1 「トランスレーショナルリサーチの進め方」
グループ2 「研究と臨床の両立」
講評 清家 正博
日本医科大学 呼吸器内科学 大学院教授
発表 グループ3 「研究の効率化と生産性の向上」
グループ4 「コロナ禍のキャリアアップの進め方」
講評 清水 章
日本医科大学 解剖人体病理学 大学院教授
Closing remarks: 土佐 眞美子
しあわせキャリア支援センター長

お申込み
QRコード
<https://one-health.jp/>
締切日 7/27 水

主催 日本医科大学 / 日本獣医生命科学大学 / アンファーマ株式会社
問合せ しあわせキャリア支援センター e-mail: app-shien@nms.ac.jp TEL: 03-3822-2131

本プロジェクトの詳細報告および発表会の動画はウェブサイトに掲載している

URL <https://one-health.jp/report/2133/>

プロジェクト参加メンバーおよび 発表会参加者からの意見

●取り上げられていた問題点に弦間学長が直接大学の方針をお話されたり、問題点をすくい上げようとしてくださったのがこの研究会の真の価値だと思います。今までの発表会でも挙げられていた問題点などが着実に改善されているのが普段の業務内でもよくわかり、感謝しています。課題もコロナの件など今直面している問題点に対する研究もあり、非常に参考になりました。

●あらゆる分野の第一線で研究されている先生方と知り合い、子育てについての悩みを共有する仲間になれたのがとても大きな財産でした。子育てについての悩みは同じ立場の人間でなければシェアしづらいものですが、分野を超えて、いろいろな悩みをシェアできる仲間ができたのも素晴らしかったです。今回のメンバーは全員が課題について前向きにかかわり、それぞれにできることについて率先して手をあげてくださり、非常にやりやすかったです。日獣大の先生方とも知り合えたこともとても自分にとって価値があることでした。

●普段交流のないメンバーと関係が持てた点、学内の制度やしぐみを学べた点がよかった。

●現状仕方ないとは思いますが、ポイントに関係する人が何度も参加して、関係ない人が参加しなくなる傾向があると思います。今回まで3回連続で同じ人が参加していたりします。

●研究に従事するにあたり、臨床や家庭との両立を多くの方が同じような問題を抱え努力されているということがわかり、励まされました。

●今回議論された内容がどのような形で現場に反映していくのか追いかける必要があると思います。これで終了したら発表だけのための調査で終わってしまうのではないのでしょうか。

●研究統括センターや、その他のセンターなど学内の有意義なシステムについて、紹介していただきたく機会があると嬉しいと思います。

1-6：研究人材育成セミナー

これまでに2度実施している女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクトにおいて研究されたキャリア形成の課題の中でも、研究費獲得については多くの研究者が関心を持っていた。今回のセミナーは、昨年開催した「研究費獲得セミナー AMED編」が好評であったこと、またその際に、多くの研究者から一般的な科研費申請をテーマとしたセミナーを望む声が多かったことから開催を企画した。多くの研究者が関わる科研費申請にまつわる講演をいただき、特に女性・若手研究者を中心にキャリア形成に必要な支援を行う。

【テーマ】 研究費獲得に向けたセミナー 科研費編

【主催】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファーマ株式会社

【日時】 2022年7月12日(火) 17:00-18:30

【開催】 オンライン+オンデマンド

【対象】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファーマ株式会社の教職員

【参加者】 116名

【内容】

「通りそう？」を「通る！」にするバーチャル戦略 ～少女マンガが教えてくれる科研費の書き方～

三輪 佳宏 先生 理化学研究所バイオリソース研究センター 室長

司会 石渡 明子 しあわせキャリア支援センター 委員

科学看護学専門員山村吉貴賞賛授章式典「サイバーヘルス・研究開発健康未来ニミルキョウ」（参加証）

研究人材育成セミナー 研究費獲得に向けたセミナー 科研費編

「通りそう？」を「通る！」 にするバーチャル戦略

～少女マンガが教えてくれる科研費の書き方～

開催

2022

7/12

Tue 17:00-18:30

オンライン開催（Webex）
事前に限り後日アーカイブ配信を致します

対象

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファ株式会社、
全米デジタルマーケティング協会、東京エレクトロ参画機関等
所屬する教職員・学生・大学院生

申込はこちら



締切：7/11

三輪 佳宏 先生

Yoshihiro Miwa



**理化学研究所
バイオリソース研究センター 室長**

自分の研究室に属するためどうしても通したくない研究や実験、わかりやすい（誤解を生じない）論文の書き方など、自分から知識やノウハウを伝えたいのではありませんか？ 最新の研究成果と最新のノウハウ、知られざる分野の最新のことまで学びは、必ずしもその道の専門家にと必要最低限のものだけでなくあるべきことを伝えます。興味持ったことでもう少し勉強する場内の方に納得してもらいたいものもあります。

一見、これらとご年相な感じがするものです。そこに置かれているロールがかわれば、それによって準備を進め、プロフェッショナルで、能力レベルアップではならぬ完成できることとなります。そんな準備の書き方のルールについて、少女マンガにヒントをとらながら考えてみましょう。

主 催
お問合せ
お申込み

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファ株式会社
しあわせキャリア支援センター 03-3822-2131（代）ext:5504、5502
aop@kenrius.ac.jp <https://one-heal.ttl.jp/>

参加者からの意見

●科研費のことをよく知らないままに、なんとなく申請しようと思っていたため、書き方やコツを一から教えていただき大変勉強になった。

●採択経験豊富、かつ審査経験豊富な方からこれだけ具体的なコツを教えていただけて、大変参考になりました。開催時期もとてもよいと思います。

●科研費データベースの有効利用、ダメ出しをしてもらう、
概要の書き方、が特に参考になりました。

●仮想ライバルの書きそうな文章をイメージすることは、今年試してみたいと思います。あとはキャッチーな短文の書き方が参考になりました。

●査読者視点に立った申請書作成のポイントが大変勉強になりました。ありがとうございました。

●実際に審査員を担当していると、必死に審査するばかりで効率よく審査する方法を今一つ編み出せなかったのですが、三輪先生の審査手順をお聞きする中に沢山ヒントがありました。

1-7：イクボス推進

イクボスワークショップin千駄木

2021年に始まったイクボス活動を推進するため、2022年度は管理職がイクボスについて考えるワークショップを実施した。2024年の医師の働き方改革を目前に控えた今、女性や若手の活躍、離職率の低下、将来の優秀な人材の確保と定着の実現は重要な課題であり、解決する鍵として千駄木地区の管理職を対象に下記の通りイクボスワークショップを開催した。部下育成とチーム・組織作りに関わる課題を共に考えることにより、組織の継続的な成長と発展を目指した。

【日時】 2022年8月4日（木） 17：00-19：00

【会場】 オンラインWebex

【対象】 千駄木地区に所属する大学院教授、教授、特任教授

【出席】 23名（大学院教授20名、教授1名、特任教授2名）

【内容】

- 挨拶 坂本 篤裕 学校法人日本医科大学 理事長
弦間 昭彦 日本医科大学 学長
- イクボスセミナーと質疑応答
「誰もが活躍できる職場 活躍させる上司 ～仕事と私生活の両立環境は、経営戦略～」
川島 高之氏 NPO法人ファザーリングジャパン理事
- グループディスカッション（6グループ）
テーマ1 部下とどう接する ①仕事の任せ方、②若手部下のトリセツ、③コミュニケーション
テーマ2 チーム全体 ①チームビルディング、②働き方改革につながる改善点
- コメント 汲田 伸一郎 日本医科大学付属病院 院長
森田 林平 日本医科大学 微生物学・免疫学 大学院教授
司会 大橋隆治 しあわせキャリア支援センター 委員



講師 川島高之氏
NPO法人ファザーリングジャパン

参加者からの意見

ワークショップに参加して

●コミュニケーションの重要性と、個性の尊重と公平化、それぞれが認め合い尊重する姿勢など、個人として、組織として大切なことを確認できました。

●今まで、管理職対象のセミナーに参加したことがなかったが、参加されたグループの先生方と経験を共有することができた。より良いチームにするにはどうしたらよいか、ともに考えることができたよい機会となった。

●チームの方向性をメンバーで共有できる組織にすることが、これまであまり出来ていなかったのが、今後の参考にさせていただきます。

●世代や立場を超えてコミュニケーションが取れ、レクチャーを受ける機会が定期的にあることが良いと思いました。

グループディスカッションの発表から

●部下を仕事を任せるために、部下が何を求めるのかを知るのが重要。部下のやりたいことを理解したうえで、それを優先して任せる。上司は責任はとるが、できるだけ上司のチェックをしない仕事を増やす方向性でやるのがよいのではないかと。

●チームビルディングに重要なのはチームの方向性を一致し方向性をぶらさない。ボスとして若い人の個性、長所・短所を把握し、仕事を任せ活躍してもらうようにする。成果が出たら、お互いが感謝、リスペクトできる雰囲気ของกลุ่มができればよい。そのためにコミュニケーションが重要。

●書類が多いので、ペーパーレス化や電子決済の推進で時間をほかに使える。会議のオンライン化によって時間の効率化につながっていることから、有用な新しいツール利用の支援があれば働き方改革につながる。時間外労働に関しては会議や研究会などへの参加は各自の興味を重んじ、強制は減らしていく必要がある。

広報誌 イクボスプレス発行

イクボスの理解促進とイクボス推進を目的として、広報誌「IKUBOSS PRESS」を発行した。「昭和ボスから令和ボスへ ～新しい働き方、マネジメント、そして人生～」をキャッチフレーズに、2022年度は1～5号まで発行し、ウェブサイト、メール、紙媒体により連携機関に配信した。

IKUBOSS PRESS Vol.1 創刊号

【発行】 2022年8月

- 【記事】
- 1 イクボス2022！発進
 - 2 新しいボス イクボス！、イクボスってどんな人？
 - 3 イクボス度 判定！



IKUBOSS PRESS Vol.2

【発行】 2022年9月

- 【記事】
- 1 イクボスワークショップin千駄木 開催報告
 - 2 なぜ今イクボス！が求められるのか？
 - 3 Let's try!イクボスクイズ



IKUBOSS PRESS Vol.3

【発行】 2022年10月

- 【記事】
- 1 汲田伸一郎 日本医科大学付属病院 院長 イクボスを宣言！
 - 2 イクボスクイズ 前号のおさらい ～介護のための休暇～
 - 3 今月のイクボス川柳



IKUBOSS PRESS Vol.4

【発行】 2022年11月

- 【記事】
- 1 4拠点でのイクボスワークショップ開催が決定！
 - 2 イクボスクイズが増えるとどんな効果があるの？
 - 3 イクボスクイズ Part2
 - 4 今月のイクボス川柳



IKUBOSS PRESS Vol.5

【発行】 2023年1月

- 【記事】
- 1 イクボスワークショップ in 武蔵小杉 開催報告
 - 2 谷合 信彦 武蔵小杉病院院長 イクボス宣言の効果語る
 - 3 教えて、川島さん！
～イクボスワークワークショップのアドバイスから～



1-8：ダイバーシティ推進講演会

2022年11月10日ダイバーシティ推進講演会を開催した。2014年にiPS細胞を使った網膜手術を世界で初めて成功させ、網膜再生医療の第一線でご活躍されている高橋 政代先生に、臨床医として研究者として社長として、家庭と仕事の兼ね合いや、患者さんとの関わり、iPS細胞を用いた網膜再生医療の現場とそれに伴う問題点などについてご講演いただいた。

【日時】 2022年11月10日(木) 18:00-19:30

【会場】 日本医科大学橘桜ホール+オンラインWebex

【対象】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、
アンファーク株式会社に所属する教職員

【出席】 108名

【内容】

1. 挨拶 弦間 昭彦 日本医科大学 学長
2. 講演 「網膜再生治療開発物語」
高橋 政代 氏 株式会社ビジョンケア代表取締役社長
3. 質疑応答
4. 挨拶 土佐 眞美子 しあわせキャリア支援センター センター長
司会 堀 純子 しあわせキャリア支援センター 委員



参加者からの感想・意見

●iPSでの移植が成功した頃に一度講演を見せて頂いておりますが、その時からさらに(飛躍的に!)進んでいらっしゃるとても素晴らしかったです。自分もその頃の自分と比べて少しでも進歩できているのだろうかと考えさせられました。

●強い意志と目標設定の明確化は大変勉強になりました。

●学生の私にとって臨床研究、留学のお話はとても刺激的で将来の選択肢が広がったように感じます。

●コストの高い再生治療をいかに一般的に実現できるように持っていくかというビジョンまで考える高橋先生にすごいパワーを感じました。基礎研究を臨床応用するための道をひらいていく事の大切さを改めて感じました。

●家庭との両立を深刻に考えずに前に進む姿はすごいと思いました。ばかにされることを恐れないところ、見習いたいと思います。

●「行き当たりばったり」の考え方や臨み方にハッとさせられましたし、多分野の人々や世界に心が開かれている先生の姿が眩しかったですし、私もそうなっていきたいと思いました。

●研究推進をするための考え方が参考になった。海外の医療事情と日本の事情の比較などの話は伺ったことがなかったため、大変興味深かった。

●「賢いギバー(与える人)が成功する」という言葉が大変勉強になりました。そうありたいと思います。

●臨床、研究、起業をそれぞれ越えてこれだけ成功をめざしがんばられている姿に感銘を受けました。

2: 女性研究者の研究力向上とリーダー育成のための取り組み

2-1：産学横断型キャリア相談窓口

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社では、研究者のワーク・ライフ・バランスと研究に関する悩みや問題を相談し、一人ひとりの状況やニーズに応じたキャリア設計が可能となるように産学横断型キャリア相談窓口を運営。

- 【名称】 みんなで支えるしあわせキャリア相談窓口
- 【対象】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社に所属する研究者
- 【相談対応】 しあわせキャリア支援センター担当者、メンター、学内外の連携機関
- 【相談方法】 対面、電話、オンライン、メール
- 【相談内容】 研究、キャリア、仕事と家庭（結婚、出産、育児、介護等）の両立、留学など
- 【相談時間】 1回あたり50分とする。回数の制限は設けない

【2022年度利用実績】 4件（対面1、オンライン2、電話1）

2-2：産学横断型メンター制度

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社では経験を積んだ先輩研究者が、若手研究者を側面から支援することによって育成を図り、女性研究者のキャリア継続、研究力の向上、上位職への登用に資することを目的としたメンター制度を実施。2022年度は登録メンターを26名に増員した。
また、メンター制度が気軽に利用されることを目指し、メンターインタビューのメール配信とウェブサイト掲載を実施している。2022年度は7名のメンターにインタビューを実施した。

- 【名称】 つなぎ、支え、前進する ～One Health メンター制度～
- 【メンティ】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社に所属する研究者
- 【メンター】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社に所属する研究者
- 【方法】 対面、電話、オンライン、メール
- 【内容】 研究、キャリア形成、進路、仕事上行き詰まった時の対応、家庭（育児・介護など）と仕事の両立、部下・学生の指導・育成
- 【期間】 3か月未満とする
- 【時間・回数】 時間：30分～1時間以内 回数：1か月に1回以上3回以内 業務時間内に実施

【2022年度利用実績】 0件

2-3：留学支援

2019年度に実施した日本医科大学と日本獣医生命科学大学教員を対象したアンケート結果では、留学未経験者の女性研究者にとって留学を妨げる要因として、留学中の育児への不安が多く挙げられた。この結果を踏まえ、本事業では女性研究者の研究力向上の一環として留学の支援を行っている。2022年度は以下の取り組みを実施した。

1. 留学アドバイザー制度の運営

日本医科大学の留学経験のある研究者がアドバイザーとして、留学に関わる疑問や悩みについて経験に基づいてアドバイスをする制度。アドバイザーには日本医科大学に所属する8名を登録。

【2022年度利用実績】 2名 延べ4回

2. 留学に関わる講演会の開催

学校法人日本医科大学国際交流センターと共催し、「米国臨床留学のすべて そうだ、米国で医療をしよう♪ 自分の将来像を考えてみよう」を開催した。日本医科大学を卒業後に米国で臨床医として働く3名が、それまでに歩んだ道のりや米国で医師として勤務する実状や働き方を講演した。

- 【主催】 学校法人日本医科大学 国際交流センター
学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター
- 【日時】 2022年4月25日 18:30~20:30
- 【会場】 日本医科大学 教育棟講堂+オンライン+アーカイブ配信
- 【対象】 海外での活動、渡米に興味のある学生・研修医・大学院生・教職員
- 【講師】 宮下 智 タフツ大学 循環器内科臨床フェロー
里井 セラ マウントサイナイ医科大学関連病院 内科レジデント
古田 穰 ヴァンダービルト大学病院 小児科レジデント
- 【司会】 根岸 靖幸 日本医科大学 微生物・免疫学教室 准教授

3. 留学先に関わる情報提供

アンケート調査および各種情報源を使い、以下の情報提供を本事業のウェブサイトで継続している。

- ① 海外研究留学情報
- ② 提供者別の海外留学に関わる奨学金情報
- ③ 地域別の育児保育環境を含めた生活情報

国際交流講演会

講演者 宮下 智先生、里井 セラ先生、古田 穰先生

【演題】 米国臨床留学のすべて
そうだ、米国で医療をしよう♪
— じぶんの将来像を考えてみよう —

日時・場所 令和4年 4/25 月
18:30-20:30 日本医科大学教育棟2階講堂 & オンライン開催

対象 海外での活動に興味のある
学生・研修医・大学院生・教職員

申込 こちらのQRコードからご登録ください。
締切日: 4月22日(金)
お問合せ: 国際交流センター
hokusanai@nmu.ac.jp 03-5802-1946

宮下 智
タフツ大学
循環器内科臨床フェロー

里井 セラ
マウントサイナイ医科大学関連病院
内科レジデント

古田 穰
ヴァンダービルト大学病院
小児科レジデント

2-4：英文校閲費用助成制度

日本医科大学と日本獣医生命科学大学は、女性研究者の研究力向上とキャリアアップを推進することを目的として、学術雑誌への投稿論文の英文校閲にかかる費用を助成している。

【応募資格】

日本医科大学、日本獣医生命科学大学に所属する
女性研究者（常勤教員（特任含む）及びポストドク研究員）

【対象】

1 学術雑誌の投稿論文

助成の対象とする「学術雑誌」の基準について原則として、以下の基準に合致することが求められます。審査の際に雑誌に関する資料の提出をお願いすることがあります。

- i. 査読が行われる英文の学術雑誌である
（学会要旨は対象外）
- ii. 投稿規定や編集委員の情報などが英文で公開されている
- iii. 論文、もしくは論文要旨を、Web等を通じて世界の研究者が閲覧できる
- iv. 原著論文、総説、症例報告いずれも可

2 著者および論文の完成度

- ・自身が主たる著者（筆頭または責任著者）として発表する著作物である
- ・申請時点で英語論文の執筆が既に終了しているもの

【2022年度支援実績】

日本医科大学 14名
日本獣医生命科学大学 3名

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2022年度
英文校閲費用助成制度

上限 10万円 **利用希望者 募集中!!**

本制度は、女性研究者の研究力向上とキャリアアップを推進することを目的として、学術雑誌への投稿論文の英文校閲費用を助成する制度です。2022年度における本制度利用希望者を以下のとおり募集いたします。

応募資格 日本医科大学に所属する **女性研究者**
(常勤教員(特任含む)及びポストドク研究員)
※原則として、日本学術振興会の科学研究費に応募する研究費番号を持つ研究者

対象 2022年4月1日～2023年2月末までに
英文校閲を行い納品が完了するもの
※予算の都合により、途中で募集を打ち切ることがあります。

お申込み・詳細はこちらから
<https://one-health.jp/support/1517/>

【お問合せ】
学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター 事務室
TEL: 03-3822-2131 (内線5501)
E-mail: app-shien@nms.ac.jp

2-5：外部資金獲得に向けた支援

日本医科大学は、意欲ある優れた研究能力を有する研究者に対し、研究力強化の支援を目的に、学内委員会と連携を図り、外部専門機関による科学研究費助成事業（科研費）獲得に向けた動画講座と研究計画書添削の支援を実施した。

【対象】 前年度の科研費の申請結果で不採択の評価が「A判定」であった、
日本医科大学に所属する女性研究代表者

【2022年度支援実績】 3名

2-6：リーダーシップ & マネジメント力養成セミナー

日本獣医生命科学大学のダイバーシティの推進を目的に、リーダーシップ&マネジメント力養成セミナー「～ダイバーシティ研究環境実現のために～「わくわく」こそが、前に進む力」を開催した。NHK「ダーウィンが来た！」ディレクターを務め、現在は「サイエンスZERO」「ロボコン」のデスク業務を担当している小林夏生氏を迎え、自然や生き物と関わる仕事、育児、キャリアへの思いについて多くの貴重な映像を交えながら講演いただいた。

【テーマ】 シンポジウム「日獣大のダイバーシティを推進するには？」

【主催】 日本獣医生命科学大学、日本医科大学、アンファーマ株式会社

【日時】 2022年5月19日（木） 15：00-16：30

【会場】 日本獣医生命科学大学 E111講義室

【対象】 日本獣医生命科学大学、日本医科大学、アンファーマ株式会社に所属する教職員

【参加者】 49人

【内容】

講演 「～ダイバーシティ研究環境実現のために～

「わくわく」こそが、前に進む力」

小林 夏生氏 日本放送協会メディア総局 第2制作センター

参加者の意見

●多様な働き方等、大変興味深いお話を伺うことができ、勉強になりました。自身の職場のチーム形成につなげていきたいと思います。

●普段聞くことのない分野の話題で興味深く聞けました。キャリアを積むことの個人的・組織的意義など分かりやすかったです。大学に通ずる点が多々あると思いました。

●女性がどのような気持ちで仕事に臨み、子育てをし、生きているかという点が知れ” Diversity” に対して向き合うきっかけとなった。

●今ある女性の権利がついこの前まで「当たり前」ではなかったこと、大きな流れを後退させないことが私たちの役目ということが心に響きました。

●NHKはやはり制度が整いすぎているため、一般的な女性に比べると恵まれているのではと思ってしまう。

●小林さんがNHKディレクターや母親としての経験から考え方が変化していて、その考え方に気づかされる点があった。

●生物学的にみて多様性のあるところが強い等の視点が興味を持って良かった。



2-7：英語プレゼンテーション講座（個別英語レッスン）

国際学会でのプレゼンテーション、質疑応答に対応できる研究力の向上を目的に、「研究力向上英語プレゼンテーション講座」としてオンラインによる個別英会話レッスンを開催した。アルクエデュケーション株式会社に講義および教材作成を委託し、受講者にとって、グローバルな研究活動を視野に入れた専門用語を含む伝わりやすい表現、話の進め方等を実際の会話から学び取り、英語でのプレゼンテーションの組み立て方を基礎から理解する機会となった。また、複数回受講できる点でも、より実践的な取り組みとなった。ネイティブ講師が担当し、実用的な英語プレゼンテーション表現や質疑応答における会話の指導、海外学会報告原稿・発表用スライド・教材の英語チェック、学会口頭発表・フリートークのレッスン等、各受講者の幅広いニーズに合わせ実施された。

【主催】 日本獣医生命科学大学 ダイバーシティ推進室

【日時】 2022年8月16日（火）～2023年3月31日（木）

【開催】 オンラインZoom使用

【方法】 個別レッスン1コマ25分（計100コマ）

【利用人数】 延べ参加者53名 利用率53%

参加者の意見

●今回も丁寧に学会発表用のスライドを添削して頂きました。苦手な冠詞の部分の修正も理由も合わせて教えて下さったので、今後の参考として大いに役立ちそうです。あっという間の25分でした。

●最後に講評とアドバイスを口頭とチャットの両方でいただけて、大変参考になりました。

●前置詞や動詞の時制の使い方についての確かなコメントをいただきました。とても良かったので皆さんにお勧めします。

●先生とは分野が違う内容のプレゼンテーションをしましたが、熱心に聞いてくださり、細かいコメントも授けてくださいました。次の時間が空いていたので、2つ連続で予約すれば良かったと後悔するくらい、あっという間に終わってしまいました。

●通信の安定性を確保して、スタート時間を守っていただけると助かります。

<日本獣医生命科学大学 教員の皆様へ>
英語でのプレゼンテーションや英語で行う授業の準備で
疑問やお困りのことはありませんか？
英語ネイティブ講師がマンツーマンでサポートします。
※ サポートは全て英語で行われます。

個別英語レッスン

1セッション
25分

サポート内容例

- 英語でのプレゼンテーション、話し方、発音のアドバイス
- 海外学会報告用原稿・PowerPoint・ポスター等のチェック
- 海外学会における口頭発表のアドバイス
- シラバスや教材等で用いる英語のチェック
- フリートークでの英会話レッスン

※ 事前にご希望の分野を教えてください。ご希望の分野は以下のいずれかです。
① 動物学 ② 獣医学 ③ 生命科学 ④ 医学 ⑤ 工学 ⑥ 農学 ⑦ 経済学 ⑧ 法学 ⑨ 社会学 ⑩ 心理学 ⑪ 教育学 ⑫ 文学 ⑬ 芸術学 ⑭ その他

実施日時：月別予定表をご確認ください。
受講形態：オンラインシステムZoomによる遠隔対応

予約方法：
左記QRコードまたは以下URLより
予約をお取りください。
<https://calendarly.com/nvlu-English>

お気軽にお申込みください！

【月別予定表：3月分】

日	時	講師	言語
3/14	10:00-10:30	Steven Tizzard	British
3/14	10:30-11:00	Matt Fuller	British
3/14	11:00-11:30	Roger Leland	Jamaican
3/14	11:30-12:00	Andrew Pinnegar	Australian
3/14	12:00-12:30	Steven Tizzard	British
3/14	12:30-13:00	Matt Fuller	British
3/14	13:00-13:30	Roger Leland	Jamaican
3/14	13:30-14:00	Andrew Pinnegar	Australian
3/14	14:00-14:30	Steven Tizzard	British
3/14	14:30-15:00	Matt Fuller	British
3/14	15:00-15:30	Roger Leland	Jamaican
3/14	15:30-16:00	Andrew Pinnegar	Australian
3/14	16:00-16:30	Steven Tizzard	British
3/14	16:30-17:00	Matt Fuller	British
3/14	17:00-17:30	Roger Leland	Jamaican
3/14	17:30-18:00	Andrew Pinnegar	Australian
3/14	18:00-18:30	Steven Tizzard	British
3/14	18:30-19:00	Matt Fuller	British
3/14	19:00-19:30	Roger Leland	Jamaican
3/14	19:30-20:00	Andrew Pinnegar	Australian
3/14	20:00-20:30	Steven Tizzard	British
3/14	20:30-21:00	Matt Fuller	British
3/14	21:00-21:30	Roger Leland	Jamaican
3/14	21:30-22:00	Andrew Pinnegar	Australian
3/14	22:00-22:30	Steven Tizzard	British
3/14	22:30-23:00	Matt Fuller	British
3/14	23:00-23:30	Roger Leland	Jamaican
3/14	23:30-24:00	Andrew Pinnegar	Australian
3/14	24:00-24:30	Steven Tizzard	British
3/14	24:30-25:00	Matt Fuller	British
3/14	25:00-25:30	Roger Leland	Jamaican
3/14	25:30-26:00	Andrew Pinnegar	Australian
3/14	26:00-26:30	Steven Tizzard	British
3/14	26:30-27:00	Matt Fuller	British
3/14	27:00-27:30	Roger Leland	Jamaican
3/14	27:30-28:00	Andrew Pinnegar	Australian
3/14	28:00-28:30	Steven Tizzard	British
3/14	28:30-29:00	Matt Fuller	British
3/14	29:00-29:30	Roger Leland	Jamaican
3/14	29:30-30:00	Andrew Pinnegar	Australian
3/14	30:00-30:30	Steven Tizzard	British
3/14	30:30-31:00	Matt Fuller	British
3/14	31:00-31:30	Roger Leland	Jamaican
3/14	31:30-32:00	Andrew Pinnegar	Australian

【3/14・3/16・3/28・3/31 担当のMatt講師より】

Hello everyone at Nippon Veterinary and Life Science University. My name is Matt and I am from the world heritage city of Bath, in England, famous for its Roman architecture, thermal spring spas and of course, rugby. I am really looking forward to meeting with you in the very near future and I sincerely hope that I can help improve your English skills. Let's enjoy speaking English together and learning from one another!

2-8：研究力強化月間セミナー

研究者としてのキャリア形成のためには、国際・国内の学会や研究会において効果的に研究成果を発表する必要がある。多くの研究者がプレゼンテーションスキルの必要性を実感している。2022年度は、これまでに実施したプレゼンテーションに関わるセミナーを土台に、研究者からのニーズの高い①医学統計、②スライドデザイン、③英語論文の書き方の3つを同時期に開催し、集中して学ぶ機会を提供した。すべてのセミナーでオンデマンド配信を行い、プレゼンテーションスキルの向上を目指した。

【主催】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社

【対象】 連携機関と全国ダイバーシティネットワーク東京ブロック参画機関に所属する教職員・学生

【開催】 オンライン (Webex)

1 研究力を向上させる医学統計入門

【日時】 2022年11月17日(木) 17:00-18:30

【参加者】 49名

【講師】 大塚 俊昭 氏 日本医科大学 衛生学公衆衛生学 准教授/
日本医科大学付属病院 臨床研究総合センター センター長

【司会】 若林 あや子 しあわせキャリア支援センター 委員

2 効果的に伝えるためのスライド作成 中級編

【日時】 2022年11月22日(火) 17:00-18:30

【参加者】 46名

【講師】 田中 佐代子氏 筑波大学芸術系 教授

【司会】 石渡 明子 しあわせキャリア支援センター 委員

3 英語論文の書き方 基礎編(全3回)

【日時】 2022年12月1日(木)、8日(木)、15日(木) 12:00-13:00

【参加者】 3回合計108名

【講師】 小野 義正氏 元理化学研究所創発物性化学研究センター

【司会】 眞野あすか、若林あや子 しあわせキャリア支援センター 委員

文部科学省科学技術人材育成費助成事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

研究力強化月間
17th November - 15th December

オンライン開催 (Webex)
参加費無料 要事前申込

11/17 木 17:00-18:30
研究力を向上させる医学統計入門

11/22 火 17:00-18:30
効果的に伝えるためのスライド作成 中級編

12/1, 8, 15 木 各回 12:00-13:00
英語論文の書き方 基礎編

講師

11/17
研究力を向上させる医学統計入門
大塚 俊昭 先生
日本医科大学 衛生学公衆衛生学 准教授 / 日本医科大学付属病院 臨床研究総合センター センター長

11/22
効果的に伝えるためのスライド作成
田中 佐代子 先生
筑波大学芸術系 教授

12/1, 8, 15
英語論文の書き方 基礎編
小野 義正 先生
元 理化学研究所創発物性化学研究センター

参加申込

対象 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社、
全国ダイバーシティネットワーク東京ブロック参画機関の教職員、学生
締切 各講座開催の前日
お申込みはこちらから▶

2022
統計
スライド
英語論文を極める！

主催 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社
開催地 しあわせキャリア支援センター
app-kienet.ac.jp
03-5622-2131 (ext.02, 508, 1984)

講師ご紹介・講演要旨

大塚 俊昭 先生
1995年日本医科大学卒業。2008年日本医科大学大学院医歯学総合研究科、医学博士。日本医科大学第一内科(循環器内科)を経て2009年より日本医科大学助産学公衆衛生学講座に在籍。2014年より日本医科大学付属病院臨床研究総合センター-部長。専門は疫学調査と臨床研究の両面での指導・研究。臨床研究総合センターでは複数の臨床研究を統括的に管理・実施し、JAMA誌、Circulation誌、J Am Coll Cardiol誌等への掲載を果たす。社会医学系専門医(公衆衛生学専門医・疫学)、日本疫学会上級疫学専門医、日本疫学会学会疫学専門医、日本疫学会学会疫学専門医・疫学、日本疫学会学会疫学専門医・疫学。

医学研究において、得られたデータをもとに新たな知見を示すためには統計解析によるデータ処理は不可欠である。最近、多くの医学統計に関する情報はインターネット情報も含め容易に入手可能であるものの、目的のデータに対していかなる統計解析手法を用いるのが適切なものか、この判断は常に研究者を悩ませる。本講座は「入門編」として、統計解析にまつわる悩みの解決にも役立つ、データセット作成に際する注意点、統計解析の基礎、解析手法の選択、統計解析の解釈、などを中心に解説したい。

田中 佐代子 先生
1991年筑波大学大学院修士課程芸術系研究科修了。2015年博士(デザイン学)取得。2017年〜筑波大学芸術系教授。主な著作は『PowerPoint による発表・研究のためのビジュアルデザイン入門』(講談社、2013)、日本サインビジュアルコミュニケーション研究会代表。

今日の講演は昨年の経験ということ、配色、書体と文字幅、レイアウト、PowerPointによる図表に関する基本事項のあらすじに加え、図表・グラフ・表などの表現も含め、より伝わるスライド作成のためのポイント、わかりやすく解説します。また最近注目されているオンライン発表における自身の失敗談や、改善策もお話しする予定です。研究発表の信頼を高めるためのビジュアルデザイン力は、ますます重要になっていくと思いますので、さっそく明日のプレゼンから使えるスキルを持ち帰ってください。

小野 義正 先生
1977年筑波大学大学院理学系研究科博士課程修了。イリノイ大、コース・ウェスタン・リザーブ大でポストドクを経験。1982年(株)日立製作所日立研究所に入社し、国際交流基金等を歴任。英語論文・口頭発表の指導に携わる。その後、日立製作所基礎研究部、研究開発本部、東京大学大学院工学系研究科、科学・技術振興機構を辞退。2014年(一)2022年3月|東北大学研究開発物性化学研究センターに、研究員(英語論文指導)に就任した。
『ポイントで学ぶ英語論文の書き方』(2018年)|『ポイントで学ぶ英語論文の書き方』(2018年)|『ポイントで学ぶ英語論文の書き方』(2018年)等、著作・編集多数。

本講座では、報告書・論文で英文を書くこと、英語論文の項目や構成、英文の書き方などを豊富な英文と事例でご説明します。論文に限らず、制作する際には高いレベルで英文の作成の技術を学べる機会としてご利用ください。日本語を訳すのではなく、英語の発想で英語論文を書くためのポイント、各テーマに解説いたしますので、様々な分野の研究者に役立てていただけたらと思います。

第1 講義 英語論文の書き方と日本語の文法
第2 講義 論文執筆の経験と知能に基づくライティング
第3 講義 英文を書くときの文法事項

3: 女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取り組み

3-1：教育担当の講師および准教授任用制度の活用

日本医科大学における女性の上位職への積極登用に向けた取り組みとして、講師（教育担当）及び准教授（教育担当）の任用制度を活用し、教育に優れた資質や経験を有している女性に指導層として活躍してもらい、優れた女性上位職を増員する。この制度で積極的に女性活躍を推進する。

2022年度 登用者数 講師（教育担当）4名、准教授（教育担当）0名

3-2：学長による取り組み

日本医科大学では、女性研究者の上位職への積極登用に向け、学長による次の取り組みを実施した。

- 1 学内重要会議でのプレゼンテーション
教授会などの会議において多様な人材の協働（女性教授数の問題解決、女性上位職登用比率の是正等）に関する啓発を実施した。
- 2 学長と分野責任者による戦略会議
女性上位職候補者在籍の分野責任者との上位職登用に向けた戦略の打ち合わせを実施した。
- 3 女性上位職候補者のコンサルティング機会の企画
女性上位職候補者に対し、個別にコンサルティングを実施した。

4: 情報発信と広報

4-1: One Health ウェブサイト

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社では文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の取り組みについて周知を図る、ウェブサイトOne Healthを運営している。連携機関代表者の挨拶、事業内容、活動報告、ロールモデル、支援制度、イベント情報、アーカイブ配信など随時更新をしている。2022年度は、イクボス推進ページを作成した。また、2022年度の本事業の女性リーダー育成型採択に伴い、牽引型と併せて情報提供を行うサイトにリニューアルした。



4-2: ニュースレターの発行

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社では、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の取り組みについて周知を図るため、ニュースレターを発行している。2022年度は6号、7号を発行した。



【6号】
2022年7月15日発行

内容

日本医科大学学長インタビュー
支援制度のご案内
活動報告
共同研究採択者


【7号】

2023年1月15日発行

内容

日本獣医生命科学大学
鈴木学長インタビュー
男性育休特集
女性リーダー育成型採択
活動報告





3章 資料

3章 資料

1 One Health 実行委員会

One Health 実行委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、学校法人日本医科大学(以下「本法人」という。)が設置する日本医科大学及び日本獣医生命科学大学の女性・若手研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備、活躍の促進並びに就労及び研究の機会の確保等を図るため、本法人が主導的、牽引的に企業と共同して行うダイバーシティ事業を実施するため、本法人内に設置する委員会について必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) ダイバーシティ事業

2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」をいう。当該事業は、2019年度に開始し、2024年度に終了する。

(2) 代表機関

ダイバーシティ事業に共同申請した機関のうち代表機関をいい、日本医科大学がこれに当たる。

(3) 共同実施機関

ダイバーシティ事業に共同申請した機関のうち代表機関と共に実施する機関をいい、日本獣医生命科学大学及びアンファー株式会社がこれに当たる。

(委員会の設置)

第3条 本法人に、ダイバーシティ事業を実施するためOne Health実行委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 日本医科大学及び日本獣医生命科学大学に、それぞれダイバーシティ推進委員会を置く。

3 前項のダイバーシティ推進委員会については、別に定める。

(委員会の構成)

第4条 委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

(1) 日本医科大学 学長

(2) 日本獣医生命科学大学 学長

(3) 日本医科大学 研究部長

(4) 日本獣医生命科学大学 研究部長

(5) しあわせキャリア支援センター センター長

(6) 共同実施機関の実施責任者 各1名

(7) しあわせキャリア支援センター長が推薦する者 若干名

2 前項の各委員は、理事長が任命する。

(委員の任期)

第5条 前条第1項第7号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が任期中に欠けた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、第4条第1項第1号の委員とする。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

(副委員長)

第7条 委員会に副委員長を置く。

2 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

3 副委員長は、委員長を補佐するとともに、委員長が委員会に出席できない場合にその職務を代行する。

(委員会の開催)

第8条 委員会は、必要に応じ、随時開催する。

2 委員会は、委員総数の過半数の出席を要する。ただし、委員が別に定める委任状を提出した場合には、当該委員は出席とみなす。

(審議事項)

第9条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 女性・若手研究者の研究の推進に関すること。
- (2) 女性・若手研究者のキャリア支援に関すること。
- (3) 女性・若手研究者による地域との連携強化に関すること。
- (4) 女性研究者の上位職率の向上、離職率の低減に関すること。
- (5) 次世代を牽引する女性・若手研究者の育成に関すること。
- (6) 女性研究者の積極採用に関すること。
- (7) その他委員会が必要と認めたこと。

(議決)

第10条 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

2 前項の出席委員には、委任状提出委員は含まないものとする。

(事務局)

第11条 委員会に関する事務は、しあわせキャリア支援センター事務室、法人本部総務部総務課、日本医科大学事務局学事部庶務課及び日本獣医生命科学大学事務局事務部庶務課が担当する。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、理事長を経て理事会の議決を必要とする。

附則

この規程は、令和元年10月1日から施行する。

One Health 実行委員会 2022年度委員名簿

第1号	日本医科大学	学長	弦間 昭彦	
第2号	日本獣医生命科学大学	学長	清水 一政	2022年9月まで
	日本獣医生命科学大学	学長	鈴木 浩悦	2022年10月から
第3号	日本医科大学	研究部長	近藤 幸尋	
第4号	日本獣医生命科学大学	研究部長	有村 裕	
第5号	しあわせキャリア支援センター	センター長	土佐 眞美子	
第6号	日本獣医生命科学大学	教授	植木 美希	
	アンファー株式会社	課長	波間 隆則	
第7号	日本医科大学	大学院教授	大石 由美子	
	日本医科大学	教授	船坂 陽子	
	日本獣医生命科学大学	教授	柿沼 美紀	

One Health 実行委員会 2022年度開催日と議題

2022年度 第1回

日時 2023年1月26日(木)

議題 1 日本医科大学および日本獣医生命科学大学における2023年度共同研究及び研究支援員配置制度
利用者の採択についてについて

2 2022年度 事業取組実施表

実施日	主な実施内容	実施機関
4月1日	2022年度研究支援員配置制度 開始	医・獣
	2022年度共同研究の補助 開始	医・獣・ア
	2022年度病児・病後児及び休日勤務時等の保育支援制度 開始	医・獣
	2022年度英文校閲費用助成制度 開始	医・獣
4月25日	国際交流講演会 開催	医・獣
5月19日	リーダーシップ&マネジメント力養成セミナー 開催	医・獣・ア
6月10日	2022年度科研費申請書に関わる添削支援 開始	医
6月29日	女性研究者による研究成果発表会 開催	医・獣・ア
7月12日	研究人材育成セミナー 研究費獲得に向けたセミナー科研費編 開催	医・獣・ア
7月15日	Newsletter Vol.6 発行	医・獣・ア
7月28日	女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト研究発表会 開催	医・獣・ア
8月4日	イクボスワークショップ in 千駄木 開催	医・獣・ア
8月16日	英語プレゼンテーション講座(個別英会話レッスン) 開始	医・獣・ア
11月10日	ダイバーシティ推進講演会 開催	獣
11月17日	研究力強化月間 医学統計入門セミナー 開催	医・獣・ア
11月22日	研究力強化月間 スライド作成セミナー中級編 開催	医・獣・ア
12月1日	研究力強化月間 英語論文の書き方セミナー基礎編 開催(12/8, 12/15)	医・獣・ア
1月15日	Newsletter Vol.7 発行	医・獣・ア
1月26日	第1回 One Health 実行委員会 開催	医・獣・ア

医…日本医科大学

獣…日本獣医生命科学大学

ア…アンファー株式会社

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

【代表機関】 日本医科大学 【共同実施機関】 日本獣医生命科学大学 アンファー株式会社

【編集・発行】 学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター

〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5 TEL 03-3822-2131

<https://one-health.jp/>

